



市政に挑戦！ 次代の西宮へ。 たかの しん

◆1990年(平成2年)生/28才

◆政党無所属

◆苦楽園小・苦楽園中・関学高・関学大(法)卒

◆阪急不動産(株)・阪急阪神不動産(株)勤務

無責任な政治との決別を。次代の政治は「政策」で勝負するべきです。

なぜ政治家の公約は、いつも胡散臭いのでしょうか。

「笑顔あふれる」「イキイキ輝く」抽象的なキャッチフレーズ。

「〇〇を充実させます!」「〇〇に挑戦します!」並べられたアイデアの数々。

残念ながら、主張した内容が実現したのかどうか、地方政治ではほとんど注目されることがありません。だから、選挙前に都合のいい公約を掲げるだけでも、批判されずに政治家を続けられてしまうのです。

何を課題と認識し、どう解決していくのか? そのために必要な財源は、どう捻出するのか?

本来「政策」とは、そういった具体的なものであるべきです。

ビジネスなら当たり前のことですが、西宮の政治にはその感覚が大きく欠けています。

人口が減り税収が少なくなる。あらゆる公共施設やインフラが老朽化していく。

そんな厳しい時代に場当たりの対応を続けていけば、借金ばかりを次の世代に遺すことになります。

「やりたいこと」を書くだけでも、チラシは作れます。

その方が若者らしくて、読みやすいチラシになったかもしれません。

知名度を得ることだけが目的なら、それでいいのかもしれませんが。

しかし、経験・知識の少ない初挑戦の立場でも、自分なりに課題を分析して政策を提案することは、政治家を目指すうえで最低限の責任だと思っています。

私はこのチラシを『TAKANO STYLE』と名付けました。私のスタイル—考えや政策をまとめたチラシ。

そして、こうして自らの主張を発信していくことこそ、私の活動スタイルだという決意を込めました。

そんな想いで作った『TAKANO STYLE』Vol. 2、どうぞお付き合いください!

PROFILE / 鷹野 伸 (たかの しん)

1990年(平成2年)3月生まれ。西宮市立苦楽園小学校・西宮市立苦楽園中学校・関西学院高等部・関西学院大学法学部卒業。大学在学中、西宮を拠点に活動する吹奏楽団「甲東ヌーヴェルヴァーグ・ウインドオーケストラ」を設立、初代代表を務める。2012年4月、阪急不動産株式会社(現:阪急阪神不動産株式会社)に入社。約6年間、新築分譲マンション部門にて勤務。2018年9月、西宮市政への挑戦を決め、無所属にて政治活動を開始。樋之池町在住。行政書士試験合格者、宅地建物取引士。

 <https://takanoshin.jp>

 @takanostyle

 鷹野 伸

 takanostyle

◀お問い合わせはこちら▶ TEL / 070-1524-7109 E-mail / mail@takanoshin.jp



平日の6:30~9:00頃、市内各地の駅前でチラシをお配りしています!

政策 1

若者が住みたいと思えない街に、未来はありません。

■「選ばれない街」になりつつある西宮

「住みたい街 No.1」に選ばれ、人気の街とイメージされがちな西宮。しかし、**実際の人口動態を見ると「選ばれない街」となりつつある現状が分かります。**

右の表は、西宮に転入してくる人と転出していく人の数を、近隣市との間で比較したもの。いずれも転出が転入を上回っています。

■近隣市との人口移動 (2017年/人)

市	転入	転出	増減
宝塚市	672	1,079	-407
尼崎市	1,285	1,502	-217
伊丹市	351	484	-133
芦屋市	539	624	-85

転入・転出が最も多いのは、就職や結婚のタイミング。東京で就職した、職場に近い大阪市内に住む…そんな形で転出が増えることは一般的です。しかし、近隣市との間で転出が超過している現状は見過ごせません。これは「**西宮より他市に魅力を感じた**」ということに他ならないからです。

私は不動産会社で働く中、「どの街に住むか」を真剣に考えている方々とたくさん接してきました。「住む街を決める」という選択は、それぞれの人生にとって重要な決断です。憧れの街、というイメージだけで選ばれるほど、甘いものではありません。近年まで人口増が続いていた西宮はその危機感に乏しく、人口流入や定着を促す政策に力が入れていません。この状況が続けば、西宮はやがて活力を失ってしまいます。

■子育て世代が住み続けやすい街へ！

人口流入・定着のために重要なのは若者が住みやすい街であることです。**私達はこれから長い人生を送っていく世代。この世代がずっとこの街で暮らせば、その子ども達も西宮で育ち、街の活気は保たれていきます。**

そのために欠かせないのは、子育て環境の充実。特に保育所待機児童の解消は急務です。私達の世代にとって、結婚・出産後も仕事を続けることは、ごく一般的な選択肢。働きたくても子どもを預けられない街に住みたいとは思えませんし、その傾向が今後より強まるのは確実です。そんな社会の変化に対応しきれず、西宮の待機児童数は増加を続けてきました。待機児童の解消には、市の土地を保育所用地へ積極的に転用する、労働環境の改善により保育士不足を解消する、民間事業者と連携して商業施設やマンションへの保育所開設を促進する等、実効性のある対策が欠かせません。

もちろん**重要なのは待機児童問題だけではありません。**幼稚園や学校を取り巻く環境にも課題は山積みですし、子ども達が心豊かに育つためにはスポーツ・文化活動の環境づくりも重要です。これらの施策を早急に進め、子育て世代が住みたい街を実現すべきです。

■保育所待機児童数 (4月1日時点)

年	人数
2008年	134人
2018年	413人

← 対策が追い付かず、待機児童数は大きく増加…

政策 2

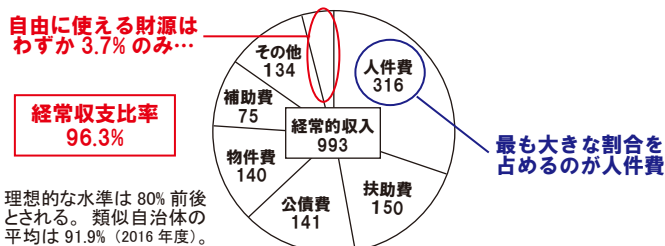
徹底した行政改革を行い、必要な財源の捻出を！

■厳しさを増す西宮の財政状況

今号で取り上げた子育て・教育環境の向上をはじめ、西宮には解決すべき課題が山積みです。どんな課題も解決するためには「お金」と「人員」が必要ですが、**西宮の財政はいま非常に厳しい状況に置かれています。**下のグラフが示す通り、毎年入ってくる収入に対して固定的な支出が占める割合を表す「**経常収支比率**」は96.3%。自由に使える財源は、わずか3.7%しかありません。現時点ですら決して良好な水準ではありませんが、今後は『人口減少により税収が低下』『高齢化により福祉の支出が増加』『公共施設の維持に多額の費用が必要』等、財政状況をより厳しくする要因が待ち受けています。まずはこの現状を改革し、必要な政策にお金と人員を投入可能な体制を整えるべきです。

西宮市の財政状況 (2017年度決算)

単位：億円



■人事制度の見直しと民間委託の推進を

中でも財政を圧迫しているのは、職員人件費の高さ。もちろん職員の方々への働きには正当な対価を支払われるべきですが、一部職種の給与は民間水準を大きく上回っています。また、民間委託が可能な業務を直営で行っていることも高コスト体質の原因となっています。(給食調理・公用車運転等)**厳しい財政状況の中で財源を捻出するには、組織の効率化とスリム化が欠かせません。**人事制度の見直しと民間委託を推進すべきです。

■人件費負担の比較 (年額)

人件費負担 (市民1人あたり)	
西宮市	71,499円
類似自治体 (平均)	57,606円

※西宮市は2017年度、類似自治体は2016年度

■職種別・平均給与の比較 (月額)

職種	西宮市職員	民間
清掃職員	479,400円	293,000円
学校給食員	427,200円	254,300円
用務員	472,200円	207,300円
自動車運転手	522,400円	197,500円
電話交換手	468,900円	211,600円

※2017年、総務省HPより

■会社員経験と無所属の立場から

市役所に最も足りていないもの——それは、経営感覚・コスト意識です。投入した費用に対してどれだけの成果を生んでいるか？コストをどれだけ削減できるか？といった発想が市役所には欠けています。税金で運営されている市役所は本来、民間企業以上に効率的な組織であるべきです。私は会社員生活で培った視点と、しがらみ無く行動できる無所属の立場を活かし、市役所に厳しく改革を求めています。

2017年、それまで増加を続けてきた西宮の人口が、ついに減少へ転じました。早くから人口減少や過疎化に悩まされてきた他の自治体は、すでに人口流入・定着を目指した施策を展開しており、西宮は遅れをとっています。このままでは、西宮が「住みたい街」でなくなる日もそう遠くありません。過去の政治と決別し、将来を見据えた取り組みが必要です！